



特定非営利活動法人

Alternative People's Linkage in Asia

APLA

2014年度事業報告

2014年度は、キャンペーンニュースのテーマを「暮らしを変える、未来が変わる。」として、私たちの暮らしや食を切り口にして、アジアの地域とつなげていく試みをしてきました。インドネシア州パプア産のカカオを使った「ホンモノの手作りチョコレートワークショップ」を北海道から福岡まで全国各地で開催し、カカオの素材の魅力や民衆交易の取り組みを伝えるとともに、私たちの食や暮らしとアジアのつながりを伝えてきました。

アジアのパートナー地域では、若い農民の育成に力を入れてきています。フィリピン・ネグロス島では、農業研修を受けた若者たちが地元に戻り、地域での循環型農業を始め、自活をめざす取り組みが始まりました。東ティモールでも、農業研修を受けた若者たちは、地域住民への経験共有などを通じてリーダーシップを発揮しはじめています。また、アグロフォレストリーなど、作物多様化の試みから発展し、地域の水源保全のプログラムを実施するなど、環境保全への取り組みにも発展しています。こうした動きは、森や水を守る試みとして、日本も学べるものがたくさんあります。今後日本や他のアジア地域ともこうした活動をつなげられるよう模索したいと考えています。

海外プロジェクト支援事業

フィリピン・ネグロス島

「次世代の農民の育成」「KF-RCの自立運営の確立」の2つをテーマに活動を進めました。

- 2014年1月から、第5期生となる若者6人がカネシゲファーム・ルーラルキャンパス（KF-RC）での研修をスタートしました。パランゴンバナナ生産者協会（BGA）元メンバーの子弟2人、ネグロスで活動するAID財団の活動地域から2人、ヨランダ台風被災地から1人、KF-RCスタッフの第1人の計6人です。途中、生活態度に問題があるとして研修生の1人が地元に戻されてしまいましたが、2014年7月から順次、第5期生5人が卒業し、養豚を中心にKF-RCで学んだ循環型有機農業を実践するために、豚舎造りを実施。2015年1月には全員の豚舎が完成し、今は自立した農民をめざし、日々頑張っています。収入はまだ安定していませんが、一人ひとりが自分に合った方法で工夫して養豚を実践しています。すでに卒業した第3期生のジョナンさんと第4期生のマーヴィンさんは、自分で母豚を育て子豚の生産を始めるまでになりました。第5期生を送り出すに際して「卒業生サポート基金」を設立しました。これまでは卒業後のサポートとして、KF-RCが子豚、餌代等を貸し付ける形で支援していました。3ヵ月後には育てた豚を販売し、その売り上げで、子豚、餌代等を返済していくという仕組みです。今回設立した「卒業生サポート基金」を毎年増えていく卒業生を支援する体制の確立につなげていきます。
- KF-RCの農場では、現在7人のスタッフが働いています。豚の販売計画や作物の作付けなども、消費者のニーズや傾向、季節的な動向を見ながら計画を立てられるようになってきました。毎週月曜日に週間予定表を作り、1週間のスタッフの動きをお互いに確認し、毎月2回スタッフミーティングを開き、養豚・野菜・マーケティングなどの状況、今抱えている問題、今後の計画などを話し合っています。先の事を計画して行動をすることの重要性、会計管理の大切さを理解し、スタッフたちの仕事に対する意識が変わりつつあります。その影響もあり、今年度の農場の収支バランスは黒字になりました。
- 低迷していた養鶏の生産性向上にも努めました。以前、100羽以上いた鶏の数が今年度初めには20羽以下にまで減少。来客用の料理として出したり、鶏たちを管理をしてこなかったことが原因です。ネグロス島では、鶏は庭での平飼いが一般的で育てる文化がなく、スタッフたちの意識を変える必要がありました。壊れていた鶏舎を改修し、新たにひよこ用のケージや若い鶏用の小屋を建て、生産性の向上に努めました。餌についても、どの種類の飼料を混ぜるか、どのように価格を抑えるかをスタッフたちが話し合って決め、配合しています。卵を抱える鶏の数やひよこの数が増えるうちに、スタッフたちの意識も変わってきました。現在はひよこの生産数も増え、鶏以外にアヒルの飼育にも力を入れています。今後は、販売や生産の計画を立て、実行していけるかが課題です。



第5期生たち。研修生のひとりマイクさんの豚舎の前で



農場のランブータンを収穫するKF-RCのスタッフたち

- KF-RC の自立運営を確立するため、養豚と会計に関するセミナーを開催しました。養豚のセミナーには、研修生や卒業生も参加し、餌の配合や世話の仕方を改めて学び、日ごろの疑問や不安を解決しました。会計セミナーは、オルター・トレード社（ATC）の会計担当者に、領収書の管理、お金の流れの記録方法、在庫管理などで指導してもらい、今後実用できるようにしていきます。
- 2013 年 11 月にフィリピン・ビサヤ地方を襲ったヨランダ台風。KF-RC も ASIN（ネグロス島の緊急支援のネットワーク）のメンバーとして、2014 年 7 月に被災地であるカディス市の高校にて有機堆肥の作り方、循環型有機農業、環境問題などについての課外授業を実施しました。

フィリピン・北部ルソン

地域循環型の有機農業を進めるために、試行錯誤が続いています

APLA では、フィリピン・北部ルソンにおける地域循環型農業の普及を応援してきています。現在は北部ルソンにおけるバラゴンバナナ出荷団体である CORDEV（コルデブ）と、ヌエパビスカヤ州マラビン渓谷の柑橘栽培の生産者へ、BMW 技術を通じたサポートをしています。CORDEV については、BMW 技術の実験的な活用はあっても、生産者の現場での活用までは実現しておらず、今後どのように協働してしていけるか協議しています。マラビン渓谷では、地域で循環型農業を普及する具体的なアイデアや手法を学ぶため、BMW 技術を導入しているギルバート・クミラさんが来日し、日本で BMW 技術を活用している生産者を訪問しました。まずは土づくりが大切であることを学び、今後は自分たちで堆肥を作る計画を立てることになりました。



静岡県の村上園さんの堆肥作りを視察するギルバートさん

インドネシア

青少年対象の「持続可能なエビ養殖と環境に関するセミナー」を開催しました

2014 年 4 月末、青少年を対象にした「持続可能なエビ養殖と環境に関するセミナー」が、エコシュリンプ生産者とオルター・トレード・インドネシア社（ATINA）のスタッフが立ち上げた KOIN（インドネシア保全）という NGO によって開催されました。セミナーには、エビ生産者や ATINA 労働者の子どもを中心に 35 人の中高大学生が参加し、地元環境 NGO の活動家や日本からの講師による水の循環システムや地域の環境問題に関する講義、(株)オルター・トレード・ジャパン（ATJ）上田社長やエビ生産者によるエコシュリンプ事業の取組みについての話に熱心に耳を傾けました。講義終了後には、KOIN メンバーが作成した理解度テストが実施され、成績優秀者が表彰されました。APLA はこのセミナーの開催意義に賛同し、開催にあたっての資金協力ならびにセミナー当日の後方支援をおこなっています。



生き生きとした様子で講義を受ける参加者たち

東ティモール

コーヒー生産者による地域づくりの取り組みが進んでいます

- コーヒー生産者グループ Fitun Caetano (フィットウン・カイトノ) と GATAMIR (ガタミル) で、2012年～2013年にかけて実地研修を受けた若手リーダーが中心となって、各家庭での裏庭菜園、果樹や野菜の他品種栽培などが着実に進んでいます。今年度は、3人の若手リーダーが別のコーヒー生産者グループの元に通いながら、自分たちの知識や技術を伝達し、地域の住民の協力をファシリテートすることで、さらなる経験を積み、成長を続けています。
- GATAMIR では、地域で収穫した柑橘類を使用した柑橘ワインの製造・販売が軌道に乗り、2014年度は300ドル以上の利益を生み出しました。その成果やグループとしての協同体制が認められ、加工設備の建設のために政府の補助金を得ることができました。今年度は新たな取り組みとして、GATAMIR の体験を別の女性グループに共有するワークショップを開催しました。これまで活動がうまく進んでいなかったグループのメンバーたちにとって、自分たちと同じ文化的背景の中に生きる女性たちが一歩も二歩も先を行っていることに大きな刺激を受け、具体的な活動に踏み出すきっかけとなりました。
- 昨年度に引き続き、住民参加型の水源保全活動を Fitun Caetano の地域で実施しました。雨季に入るのが例年よりかなり遅れたため、雨を待って2015年2月の実施となりましたが、グループのメンバーだけでなく、子どもから大人まで地域の沢山の山の人たち、さらには「この実践から学ばせてほしい!」とほめる別の県からやってきたコミュニティのリーダーたちなど、合計で100人近くが参加しました。環境活動家のエゴ・レモスさんの指導のもと、水が湧き出る場所を保全し、土地の保水力を高めるために植樹する作業を通じて、自分たちで主体的に水を守っていくことの重要性を学びました。



傾斜地に段々畑を作るのに有効な技術を地域住民に伝える若手リーダーたち



整備した水源の上方に植樹

互恵のためのアジア民衆基金 (APF)

APF 第5期総会は、2014年11月3日にパレスチナ西岸地域のラマラで開催されました。同年7月から8月にかけてイスラエルのガザ攻撃がなされたことや、イスラエル当局のビザ発行拒否などもあり、参加したのは日本、フィリピン、インドネシア(但し、ATJ社の現地責任者)のメンバーのみとなり、韓国、東ティモール、マレーシア、パキスタンは参加できませんでした。その意味では十全な総会にはなりませんでした。しかしこの時期にパレスチナを訪問し、パートナー団体との親交と連帯を深めたことに大きな意義があったといえます。総会前後には、オリーブ生産者、オリーブ油搾乳工場、ナツメヤシ生産者などを訪問して交流しました。

総会後の主な動きとしては、新規案件であったオルター・トレード社(ATC/フィリピン・ネグロス島)砂糖キビ作付け資金、アララ溪谷開発財団(AVDFI/フィリピン・ミンダナオ島)ギフトセンター開設運営資金の2件(合計約1,200万円)の融資が実施され、また、ATCは幹事社員としての活動を開始しました。

※総会での協議では、特に第4期総会で提案された「幹事社員制度」の具体的な運用について大筋合意され、委任契約書などの法的整備をすることが確認されました。また、融資金返済が困難になっているCORDEV(フィリピン・ルソン島北部)への融資残金を損金処理することが承認されました。2014年7月末現在の長期貸付金(融資金)は30,283,220円。また、第6回総会を2015年11月にネグロスで開催することが決定されました。

広報・出版事業

機関誌ハリーナ (Vol.24 号～ 27 号発行)

2014 年 5 月 24 号

【特集】 協同組合が創るエネルギーと地域おこし
— 原発廃止を決めたドイツを訪ねて

- *再生エネルギーが地域を変えた◎吉澤真満子
- *農家が創り出す自然エネルギー—新たな地域おこしが見えてきた◎近藤恵



2014 年 8 月 25 号

【特集】 現地報告・ミンダナオ島 フィリピンバナナの現実◎小林和夫



2014 年 11 月 26 号

【特集】 【座談会】 「国際家族農業年」 を考える

◎市橋秀夫、安藤丈将、箕曲在弘、秋山真兄、吉澤真満子、野川未央、大橋成子



2015 年 2 月 27 号

【特集】 オリーブオイルの里、パレスチナを訪ねて◎若井俊宏



※ウェブサイト上で『ハリーナ』のバックナンバーを全ページご覧いただけるようになりました。
<http://www.apla.jp/archives/3336>

手わたしバナナくらぶニュース 224～229号

特集ラインナップ.....

- 224 『バナナと日本人』 から 30 年 いま、フィリピンバナナと改めて向き合う (2014 年 5 月発行)
- 225 ラオスの豊かな森から届くコーヒーをご紹介します (2014 年 7 月発行)
- 226 パレスチナ・ガザからの声 (2014 年 9 月発行)
- 227 「作る人、食べる人」の交流から「友だち」関係へ (2014 年 11 月発行)
- 228 フィリピン・北部ルソンから、ギルパートさん初来日 (2015 年 1 月発行)
- 229 チョコレートと私たち～甘いチョコレートの裏側で～ (2015 年 3 月発行)



チョコレート・アライアンス

フェアトレードやオーガニックなど、生産者や環境に配慮して作られたチョコレート（「愛のチョコレート」と呼んでいます）の認知度を高め、積極的に選んでくれる消費者を増やしたいという想いのもと、そうしたチョコレートの輸入・販売・普及に取り組む企業・団体が立ち上げた「チョコレート・アライアンス」というネットワークに APLA/ATJ として参加しています。今年は、全国 6 か所（東京、北海道、神奈川、愛知、岐阜、鹿児島）で「もう一つのチョコレート展」を開催したほか、大地を守る会との協働によるプレス発表会や「チョコレートナイト」というイベントも開催し、メディアを通じた認知度向上の機会も数多くありました。



2015 年 1 月 17 日に開催された「チョコレートナイト」の会場にて

交流事業

BMW 技術協会との交流

フィリピン・ネグロスのKF-RC や北部ルソンにおいて、地域循環型有機農業を実践するため BMW 技術の活用を進めています。また、協会の会員である日本の生産者とアジアの生産者をつなげることを目的とし、BMW 技術協会との連携を進めています。2014 年には、東京で「第 4 回アジア BMW 技術交流会」が開催され、フィリピンからネグロスのアルフレッド・ボディオスさん、北部ルソンのギルバート・クミラさんが参加しました。

第 4 回アジア BMW 技術協会に参加するアルフレッドさんとギルバートさん



バナナ募金の送り先保育園との交流

10 月にパラゴンバナナ生産者のボイ・カトゥパイさん、現地のバナナ出荷団体である ATC のパウロ・ギニアボさんが、あすなる幼稚園、こどものいえそらまめを訪問しました。あすなる保育園では、園長先生から震災時のお話を伺い、それぞれの園で、子どもたちとお互いに歌を披露しあうなどの交流が実現しました。

11 月にはバナナ募金で募金集めを協力してくれている東洋大学 BMS (Banana Makes a Smile) の福島ツアーが実施され、学生 10 人が参加しました。バナナ募金先のかば保育園、福島こひつじ幼稚園を訪問し、先生や子どもたちと交流したほか、二本松市では農家の方々からお話を伺う機会も持つことができました。宿泊した二本松市東和にある農家民宿では、民宿のご夫妻からも震災から今に至る現地でお話が聞け学生たちにとっては貴重な経験となりました。



福島を訪問した BMS のメンバーたち

「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップ・全国キャラバン

今年で 2 年目となるインドネシア・パプア産のカカオからチョコレートを手作りするワークショップですが、昨年に引き続ききまぐれやの吉田友則シェフの協力を得て、福岡、香川、兵庫、大阪、愛知、岐阜、福井、神奈川、東京、埼玉、福島、北海道と全国を行脚し、合計 30 か所で 500 人以上の方にご参加いただきました。パルスシステム、大地を守る会、無印良品などでもワークショップを開催し、カカオから手作りするチョコレートの魅力、産地のパプアの状況を昨年以上に多くの人に伝えることができました。また、小中高校あわせて 4 校で課外授業としてチョコレート作りをする機会をいただき、体験型学習として大きな評価を受けています。



手作りチョコレートには、小学生も興味津々

◆ 2014 年度も各地で「ホンモノの手作りチョコレートワークショップ」を開催しました

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 6月2日 兵庫県西宮市(Cowork' in Kurakuen) | 11月18日 パルスシステム東京(あやせ委員会) |
| 6月3日 香川県高松市(Coworking Space gain-Y) | 11月26日 東京都港区(エコプラザ) & 大地を守る会共催 |
| 6月25日 埼玉県・松山高校 | 12月8日 パルスシステム埼玉(北部エリア委員会) |
| 7月18日 東京都・神田女学園中学校高等学校 | 12月11日 東京都杉並区(カフェ・アンナブルナ) |
| 9月25日、26日 福岡県直方市・学びと癒やしのセミナーハウス序庵館 | 1月19日 東京都渋谷区(hako gallery) |
| 10月11日~13日 愛知県名古屋(風"s、西光院、櫻誓願寺)、岐阜県揖斐川町(アースデイいびがわ) | 1月23日 無印良品有楽町店 |
| 10月20日、21日 無印良品セレクト八王子店 | 1月24日 神奈川県逗子市で開催された「国際文化フォーラム in 逗子」 |
| 11月3日 無印良品グランフロント大阪店 | 1月29日 パルスシステム東京(調布 A 委員会) |
| 11月5日 無印良品有楽町店 | 1月31日 埼玉県飯能市(ヤナギコーヒー) |
| 11月8日 北海道札幌市(ほっかいどうピーストレード) | 2月5日 東京国分寺市(カフェスロー) |
| 11月10日 北海道標茶町(なかまの家) | 2月6日 東京・羽村市立栄小学校 |
| 11月11日 北海道陸別町(陸別くらし塾) | 2月7日、8日 福井県福井市(渡辺イングリッシュスクール) |
| 11月15日 福島県福島市(スローフード福島、カフェ・ギャラリー風と木) | 3月8日 東京・板橋 cosh |
| 11月16日 二本松有機農業研究会の収穫祭 | 3月17日、18日 東京・八王子市立宇津木台小学校 |
| | 3月20日 埼玉県日高市・高麗川南公民館 |
| | 3月31日 大地を守る会 |

グリーンコープ青少年ネグロス体験ツアー・fromネグロス組合員ツアー

2014年7月24日～31日にかけて、グリーンコープ共同体主催青少年ネグロス体験ツアーが開催されました。8人の高校生がツアーに参加し、ネグロスの若者たちと交流しました。異文化体験、共同生活やワークショップを重ねるなかで、参加した若者が自分を見つめ直し、自信をつけていく体験ができるツアーとなりました。

2014年9月11日～16日は、グリーンコープ・fromネグロス組合員ツアーが実施され、ネグロス島を訪問しました。東ネグロス州のバラゴン生産地を訪問したほか、カネシゲファーム・ルーラルキャンパス(KF-RC)の名前の由来であるグリーンコープ元専務理事の故・兼重正次さんにゆかりのある方の参加もあり、ツアー参加者とKF-RCやATCスタッフと共に、民衆交易の原点を確認したツアーとなりました。



ワークショップでゲームをするネグロスと日本の若者たち



兼重さんのお墓の前で集合写真

二本松有機農業研究会との交流

2014年度も、二本松有機農業研究会との交流を続けてきました。4月には、2013年度に実施した自然エネルギーを視察したドイツツアーの報告会が二本松で開催され、ツアーを助成してくれたNPO法人アユス仏教国際協力ネットワークと共に参加しました。その他、10月にはネグロスインターンの寺田が一時帰国中に、有機農業の現場の見学、11月にはフィリピンから来日したネグロスのアルフレッド・ボディオスさん、北部ルソンのギルバート・クミラさんが、福島農業の現状を視察し、交流しました。12月に開催された二本松有機農業研究会の収穫祭では、「ホンモノの手作りチョコレートワークショップ」も開催しました。



ドイツツアー報告会の様子

アースデイマーケット

月一回、代々木公園（東京都渋谷区）で開催されている東京朝市・アースデイマーケットに継続して出店しています。2014年11月からは、「P to P café」という名前で移動カフェ車での飲食販売を開始。東ティモールのコーヒーなどをその場で味わってもらえるようになりました。これまで民衆交易やAPLAのことを知らなかった人たちに向けて、民衆交易のストーリーやそれぞれの品物の魅力を伝える貴重な機会となっています。

P to P café 開店中



調査研究事業

『バナナと日本人』発行から32年後のフィリピンバナナの現状と、民衆交易開始から25年が経過した(株)オルター・トレード・ジャパン(ATJ)のバラゴン事業を総括するためにATJ政策室が実施した調査報告会を共催しました。2013年度に開催された第1回目に続き、第2回目として2014年10月25日に、東ネグロス州からのバナナ生産者来日と合わせて報告会が開催され、バラゴン生産者からの報告および、8月に東ネグロス州のバナナ生産者の調査を実施したAPLA理事の市橋秀夫さんの報告との2本立てとなりました。

2014年度カレンダー

4月

- 1 第8回BMW 技術基礎セミナーに参加
- 4 滝桜花見まつり実行委員会主催「日本の農家が生き残るための三春「バーチャン戦略特区計画」に向けて勉強会～福島三春の取組から」に参加
- 12 APLA 理事会・評議員会開催
- 19,20 アースデイ東京2014 に出店
- 20 三春花見まつりに参加
- 22 二本松有機農業研究会、NPO 法人アユス仏教国際ネットワークと交流会を実施
- 27 セカンドリーグ埼玉の企画「白幡日曜塾」で講演
- 27 東京朝市アースデーマーケットに出店

5月

- 9-15 ネグロスへ出張
- 11 NPO 法人ジュレー・ラダック、ジュマ・ネットとの共催で「エスニックフェスタ-Stands Up for Your Rights-」を開催
- 24 APLA 第7回総会開催
- 25 東京朝市・アースデーマーケットに出店

6月

- 9-21 フィリピン北部ルソン・ネグロスへ出張
- 14 上智大学グローバル・コンサーン研究所主催「国際家族農業年と人びとの食料主権—国連食糧農業機関（FAO）のパラダイム転換を学ぶ」に協力
- 18 武蔵大学で講演
- 19 NPO 法人アユス仏教国際協力ネットワーク総会に出席
- 28 カフェ・スローで開催された「カンタ！フェスタ」に出店
- 29 東京朝市・アースデーマーケットに出店

7月

- 15 文化学院授業で取材受入
- 16 APLA 時局懇談会開催
- 20 東京朝市・アースデーマーケットに出店
- 21 成蹊大学で講演
- 22 NGO 緊急集会とキャンドル・アクション STOP! 空爆～ガザの命を守りたい～に参加
- 24-31 グリーンコープ主催青少年ネグロス体験ツアーが開催され同行
- 29,30 地球環境基金若手プロジェクトリーダー研修に参加

8月

- 3 東京朝市・アースデーマーケットに出店・ガザ支援を呼びかけ実施・武蔵大学の校外授業受入
- 6 東洋大学BMSの学生グループがバナナ募金受け渡しに来社
- 23,24 二本松有機農業研究会のメンバーと『ふくしま発、「ご当地エネルギー」の可能性～自然エネルギーが拓く地域の未来～』、「よみがえれ! 福島 “生きる” “耕す” 有機農業のつどい」に参加
- 23 「NGO 共同シューズ・アクション Stop the killing in GAZA ガザの命を守りたい」に参加

9月

- 1-11 東ティモールへ出張
- 8-11 ネグロスへ出張
- 11-16 グリーンコープ組合員ツアーに同行
- 24,25 福島県にある福祉作業施設・いわき学園（いわき市）とチャローム（福島市）を訪問・二本松有機農業研究会との懇親会・バナナ募金送り先の青葉学園を訪問

10月

- 5 東京朝市・アースデーマーケットに出店
- 19 土と平和の祭典2014 に出店
- 22 時局懇談会を開催（NPO 法人自立生活サポートセンター・もやいの稲葉剛さん講師）
- 22 グリーンコープ共同体 fromネグロス学習会・グリーンコープ労働協同組合・連合職員とフィリピン・東ネグロス州のパナナ生産者の交流に同行
- 23 グリーンコープ・おすすり委員会の学習会とパナナ生産者の交流に同行・グリーンコープの活動視察

- 25 「パランゴン民衆交易公開セミナー・パランゴン生産者の素顔を探る～フィリピン、東ネグロス州編」を共催
- 29-11/13 グリーンコープ共同体 fromネグロスセミナー」が開催され、各単協を訪問
- 29 パランゴンバナナの生産者と一緒に、バナナ募金届け先の福島県内の保育園を訪問

11月

- 2 生活クラブ大阪生協まつりに出店
- 17 パルシステム埼玉平和募金団体交流会に参加
- 19-30 フィリピン・ネグロス島、北部ルソンよりゲストが来日・第4回アジアBMW 技術交流会に参加・現場視察訪問（茨城、山梨、静岡、アジア学院、福島県南相馬市、同二本松市）
- 20-22 第4回アジアBMW 技術交流会に参加
- 23 東京朝市・アースデーマーケットに、「P to P Café」として初出店
- 24 「国際家族農業年から始まる小規模家族農業の道—フランス農業開発研究国際協力センター（CIRAD）の研究者を迎えて」に参加
- 25 フランスのCIRADの研究者を迎えて開催された参議院・院内集会に参加
- 27 「チョコレート・アライアンス × 大地を守る会コラボ開催プレス向け新作発表会」に参加
- 29 生活クラブ生協神奈川他関連団体開催『東日本大震災・復興支援まつり』に参加
- 29-30 東洋大学 BMS の学生メンバーの福島ツアーが開催され同行

12月

- 7 NINDJA 主催「アチェの祈り—「あの日」から10年—」に、飲食・物品販売で出店
- 9 パルシステム埼玉・平和フェスタに参加
- 14 第8回国際有機農業映画祭に出店
- 14 東京朝市・アースデーマーケットに、「P to P Café」として出店

1月

- 13 時局懇談会を開催（一般社団法人協同センター・東京の若森資朗さん講師）
- 17 チョコレート・アライアンスと大地を守る会共催の「チョコレートナイト」に参加
- 25 東京朝市・アースデーマーケットに、「P to P Café」として出店
- 25-30 ネグロスへ出張
- 28 カネシゲファーム・ルーラルキャンパス（KF-RC）の理事会開催

2月

- 1 生活クラブ埼玉主催「カンタ！ティモール」上映会に参加
- 2 アユス仏教国際協力ネットワークの第2回NGO 新人賞を野川が受賞
- 3 学芸大学附属高校の授業で講演
- 3 パルシステム埼玉平和募金贈呈式に出席
- 14 パルシステム東京ピースフェスタに参加
- 15 東京朝市・アースデーマーケットに、「P to P Café」として出店
- 19 パルシステム東京主催「パルワゴン」に参加
- 21 草の根市民基金ぐらん公開選考会に参加
- 28 理事会・評議員会を開催

3月

- 1 大地を守る会・オーガニックフェスタにチョコレートアライアンスのメンバーとして参加
- 12 第10回BMW 基礎セミナーに参加
- 21 日本平和学会関東地区研究会& 恵泉女学園大学平和文化研究所・花と平和のミュージアム共同企画「『小さな民』からODAの軍事化を考える」で物品販売
- 29 東京朝市・アースデーマーケットに、「P to P Café」として出店

フェアトレード事業

APLA ネットショップ

- 5月 La Granda Familio のグラノーラの販売開始。しばらく入荷待ちになっていたカカオマス・ニブの販売再開。
- 10月 マスコバド糖パウンドケーキ販売開始。まめ福の東ティモール販売開始。コーヒーくらぶ開始。東ティモールドリップバッグの販売終了。
- 11月 カカオクッキー Wa の販売再開。
- 12月 ルワンダコーヒーの販売休止。
- 2月 生チョコレート・トリュフの販売開始。
- 3月 チョコレートの手作りキットの販売開始。

2014 年度 (2014 年 4 月～ 2015 年 3 月)	
ネットショップ	9,749,632 円
イベント	1,243,702 円
事務所販売	1,079,748 円
手わたしバナナくらぶ	2,255,250 円
手わたしエビくらぶ	468,050 円
ギフト (夏・冬)	74,900 円

各種コーヒー

2013 年度と比べ、よりどりコーヒーセットの注文数は減少していますが、各コーヒーのセット注文が増えました。各コーヒーに固定のお客様ががついてきた成果です。その中でもルワンダが人気だったものの、国際市場での価格高騰や為替の影響などで販売休止となっています。東ティモールのドリップバッグは売れ行きが伸びず、販売を終了しました。

マスコバド糖関連商品

6 月に中京新聞、東京新聞にマスコバド糖が掲載された影響で、一時的に注文が殺到しました。かりんとう・黒みつの売上は伸びが悪く来年度はイメージアップのための広報をしていきます。

P to P (People to People) ブランドの初めての商品としてマスコバド糖パウンドケーキを発売しました。まだまだ試行錯誤中ではあるものの、幅広い方に食べていただけるようイベントなどを中心に販売しながら、今後も広報に力を入れていきます。

グランドの塩関連商品・オリーブオイル

オリーブオイルはガザ地区への募金付きにを企画したことで例年に比べ売上が伸びています。

チョコレート

ビターの発売のタイミングがバレンタインデー直前となってしまったため、来年度は、シーズン前から販売できるような体制をつくっていきます。

その他

日本茶や紅茶のリピーターが増え、確実に売上が伸びてきています。

夏と冬のギフトセット

初めての試みとして、前受金制ではなく後払い制にしました。夏のギフトの注文数が思うように伸びず、ギフトの実施をやめました。

手わたしバナナくらぶ

2014 年度の新規入会者数は 8 名。現在、67 名の内、定期的に頼んでくださるのは 40 人程。会員の高齢化で共同購入が難しく退会につながってしまうケースが年々顕著に表れています。新しく入会してくださる方もいるので、今後も積極的に広報していきます。

現在会員数 67 人 (65)

年間出荷件数 (月平均)			
20kg	10kg	6kg	3kg
36 件 (23)	131 件 (129)	154 件 (158)	206 件 (211)

※ () 内は前年度

エビくらぶ

簡易包材の取り入れなど経費節約も実施し、会員さんへのお便りの内容を工夫するなど、前年から地道に継続してきた成果が、エビの販売価格が上がっているにもかかわらず会員数に大きな変動はなく新しい会員さんも増えました。これからも多くのお客様に利用していただき、エコシュリンプや産地に関する情報を届けられるようにしていきます。

現在会員数 9 人

	A コース	B コース	C コース	D コース
出荷件数 (4～9 月)	36 件	6 件	6 件	6 件
出荷件数 (10～3 月)	27 件	15 件	3 件	0 件

緊急支援報告

パレスチナ・ガザ地区への緊急救援

イスラエルによるガザへの攻撃を受けて、7月に緊急救援の呼びかけを実施しました。総額5,105,330円の募金が集まり、APLA手数料10%を差し引いた4,594,798円をパレスチナのオリーブオイル出荷団体であるPARC（パレスチナ農業復興委員会）とUAWC（パレスチナ農業開発センター）に半額ずつ2回に分けて送金しました（第1回目送金：2014年11月、第2回目送金2015年3月）。

支援金は、食料、医薬品、寝具や衛生用品など緊急物資の配給と、復興支援としてオリーブの木を植林するための苗木配布などに活用されました。



緊急救援物資の準備

福島の子どもたちに届けよう・バナナ募金（2011年11月から継続）

2011年3月の福島第一原発の事故後、子どもたちが少しでも安心・安全な食べものが食べられるようにと、農業を使わずに栽培されているバランゴンバナナを福島の保育園・幼稚園に定期的に送る活動を2011年11月より実施しています。緊急救援事業として始まった取り組みのため、当初は1年間を予定していましたが、福島の実況が今もなお変わらないということ、3.11を機に生まれたつながりや関係性を大切にしたいため、来年度も引き続き活動を継続します。

募金状況

年度	金額	内訳	
2011年	1,448,395円	海外からの支援金	645,512円
		国内の募金額	802,883円
2012年	864,000円	国内の募金額	864,000円
2013年	966,963円	国内の募金額	686,963円
		助成金（日蓮宗あんのん基金）	280,000円
2014年	827,532円	国内の募金額	827,532円

バナナ発送状況・その他経費内訳

年度	金額	内訳：バナナ発送重量	内訳：その他
2011年	459,299円	404,999円（1,162kg）	54,300円（チラシ作成費、出張費等）
2012年	1,076,755円	991,646円（2,884kg）	85,109円（資料発送費、ワークショップ出張費経費等）
2013年	1,304,389円	1,265,011円（3,427kg）	39,378円（チラシ作成費、資料発送費、出張費経費等）
2014年	937,207円	896,816円（2,269kg）	40,391円（出張、資料発送費等）

※募金金額の最大10%を事務経費として使用。

発送先保育園・幼稚園

いわき市2件、南相馬市1件、相馬市1件、二本松市1件、郡山市2件、福島市13件 合計20件

<他団体とのネットワーク>

- ・アユス仏教国際協力ネットワーク、日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET)、ATJ、とともに福島を応援する活動を継続中。2013 年に商品開発をした「カカオクッキー Wa」の販売を継続しています。
- ・2014 年 7 月のイスラエルによるガザ攻撃を受けて、パレスチナ関連で活動する NGO や人権団体と共に、共同声明を出したり、犠牲者追悼キャンペーンを実施しました。また、緊急救援のための募金活動を展開しました。
- ・滝桜花見まつり実行委員会 (アジア太平洋資料センター / PARC、日本国際ボランティアセンター / JVC、福島「農と食」再生ネット) に参加し、福島県三春町の女性たちと交流しました。

<2014 年度の賛同・協賛>

- ・ODA 大綱 4 原則における「非軍事主義」理念の堅持を求める市民声明
- ・エクアドル大統領宛て抗議文 (ハビエル・ラミレス氏の即時釈放、フニン村に逗留中の鉱山開発公社 ENAMI-CODELCO 及び警官隊の即時撤退の要請)
- ・NPO 法人制度・税制度に関する要望事項
- ・日印原子力協力協定に向けた交渉停止を求める要望書
- ・イスラエル大使館宛 パレスチナ行政拘禁者に対する即時釈放を求めます
- ・【共同声明】ガザ地区に対する無差別攻撃の即刻停止と国際人道法に則った市民の保護を強く求めます
- ・国際アピール「日印原子力協定を放棄せよ」
- ・ガザ紛争における戦争犯罪を裁くために、日本政府のイニシアチブを求めます
- ・「いのちの海とサンゴ礁を守れ」辺野古新基地建設に反対する NGO 緊急共同声明～辺野古新基

<メディア掲載>

- ・毎日小学生新聞 (2015 年 2 月 2 日) 「はい! 地～図 赤道から南北 20 度『カカオベルト』」
- ・毎日新聞 (2015 年 2 月 6 日) 「チョコから学ぶ実情」
- ・毎日小学生新聞 (2015 年 2 月 11 日) 「今年のチョコは『ホンモノ』を」
- ・毎日小学生新聞 (2015 年 2 月 13 日) 「今ドキバレンタイン大作戦 (下) 笑顔の輪を広げよう」
- ・マイ ECO vol.43 「チョコレートから見える『真実』」
- ・2015 年 2 月号 Hanako 「MARCHE' S SWEETS」

<会員数報告> 2015 年 3 月 31 日時点

	個人	団体	合計
正会員	119	38	157
賛助会員	93	16	109
合計	212	54	266

<組織体制>

- 理事 : 秋山眞兄 (共同代表) 疋田美津子 (共同代表) 吉澤真満子 (事務局長)
市橋秀夫 上田誠 大野和興 鹿毛優子 廣瀬康代 堀芳枝 (以上 9 名)
- 監事 : 近藤康男
- 評議員 : 赤松結希 秋山澄兄 安藤丈将 岡公美 近藤恵 出口雅子 橋本順子
箕曲在弘 (以上 8 名)
- 顧問 : 弘田しずえ 前島宗甫
- 事務局員 : 吉澤真満子 (事務局長) 野川未央 (専従) 赤石優衣 (専従 / 6 月末まで) 大久保ふみ (専従)
坂野亜希子 (アルバイト) 大橋成子 (非専従) 寺田俊 (ネグロス駐在インターン)

<総会・理事会・評議員会>

- 総会 : 第 5 回総会 (2014 年 5 月 24 日)
- 理事会 : 第 19 回 (2014 年 9 月 27 日) 第 20 回 (2015 年 2 月 28 日) 第 21 回 (2015 年 4 月 25 日)
- 評議員会 : 第 14 回 (2014 年 9 月 27 日) 第 15 回 (2014 年 2 月 28 日) 第 16 回 (2014 年 4 月 25 日)



特定非営利活動法人 APLA 2014 年度事業報告

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-15 サンライズ新宿 3F

☎tel☎ 03-5273-8160 ☎fax☎ 03-5273-8667

✉E-mail☎ info@apla.jp ☎URL☎ http://www.apla.jp

◀表紙写真▶東ティモールのコーヒー生産地で水源保全の取り組みが実施された様子

